石巻支所復興だより

復興庁 Reconstruction Agency 新たなステージ　復興・創生へ

令和２年４月２日 No. 8

宮城復興局　石巻支所

牡鹿半島の森林再生へ

宮城県環境生活部によると、平成30年度の石巻・女川地区におけるニホンジカの生息頭数はおよそ10,500頭、そのうち牡鹿半島及びその周辺部ではおよそ3,300頭が生息しています。

東日本大震災以降、牡鹿半島部の各集落の家屋、住民が減少しました。また、山林の荒廃が加速化したこともあり、ニホンジカは半島部のみならず内陸部の住宅街、民家の庭先まで生息域を拡大しています。

平成29年、地域の持続性を維持するための課題解決活動を行っている一般社団法人「おしかリンク」（代表理事　犬塚恵介氏）は、ニホンジカの食害調査を手始めに森林保全の計画づくりに着手しました。パートナーである株式会社地域環境計画から、自生していて鹿が好んで食べない「ウリハダカエデ」に着目してはどうかとの提案を受け、**「牡鹿半島荻浜湾流域森林再生25年計画」**を作成し、荒れた山林環境の改善と、メープルシロップを活用した産業づくりに挑戦しています。

防鹿柵での植樹試験

樹液採取とメープルシロップづくり

今年で3回目となる「カエデの樹液採取とメープルシロップづくり」のワークショップが2月29日に開催されました。エコツアーの参加者と大自然の中で山歩き・樹液採取を勉強しました。採取後は皆でバーベキューも行い懇親を深めながら楽しいひと時を過ごしました。

「ウリハダカエデ」１本から採取できる樹液はおよそ10㍑で、その樹液を40分の１に煮詰めることで、糖度が約66％のメープルシロップが出来上がるということです。

ニホンジカの群れ（写真提供：おしかリンク）

樹液採取の様子（写真提供：おしかリンク）

風倒木と食害で荒廃した山林

バーベキュー　（写真提供：古里裕美さん　）

出来上がったメープルシロップ（写真提供：おしかリンク ）

これからの活動

今回は「ウリハダカエデ」30数本から樹液を採取しました。今年は苗木100本の植樹を予定し、将来的には、1,000本以上の樹木から樹液採取を目指します。また、来年からはメープルシロップの本格的商品化に向けた活動を開始し、当初は2,000㍑、その後、常時10,000㍑の採取を目指しメープルシロップを活用した産業づくりを考えています。

なお、「ウリハダカエデ」のほかにも鹿が好んで食べない「オニグルミ」の木、「シロダモ」の木の利用も検討されています。

「おしかリンク」は、森林の荒廃が進み土砂崩れが起きやすくなっている環境を改善するために、「ウリハダカエデ」を含む複層混交林を再生し、牡鹿半島の山を本来あるべき姿に戻そうと頑張っています。

ウリハダカエデを説明している犬塚代表理事